

# 地域イベントにおける映像表現を活用した効果的な視覚情報伝達について

芸術学部  
ソーシャルデザイン学科  
教授

岩田 敦之



## 研究シーズの紹介

近年、プロジェクションマッピングをはじめとする映像表現が地域イベントなどで活用されるようになってきましたが、その適用範囲はアートやエンターテインメント分野に限定されているのが現状です。そこで本研究室では、映像が持つ高い視認性や広い投影面積、瞬時の情報切り替えといった特性に着目し、イベントにおける効果的な視覚情報伝達手法としての新たな活用方法を探っています。

今年度は、香椎宮観月祭や学内イベントにて、LEDライトやシャボン玉などの物理的素材と映像を組み合わせた空間演出、ディスプレイを用いたデジタルサイネージによる情報提示の実証実験を行いました。今後も、視覚表現の持つ可能性を検証しながら、より実用的な映像活用のあり方を模索していきます。



### 映像表現による 情報伝達技術

- 映像技術の活用で状況に応じ、効果的な空間演出が可能
- 動的な演出による高い視認性を活かした情報伝達が可能



香椎宮観月祭 ビデオプロジェクション2024「遷移」



BUBBLES! 夜のカラフル水族館 2025

## 期待される活用シーン

- イベントなどで状況に合わせた効果的な演出を行いたい。



小型プロジェクターやディスプレイなどでも運用可能なため、手軽に情報伝達が行えます。



- 夜間のイベントでは、欲しい情報が手に入りにくい。歩きスマホは危ないし…。



夜間でも明るく見やすく、状況に合わせて必要な情報が取得できます。



### その他の研究テーマ

- ・モーショングラフィックスを用いたビジュアルコミュニケーションに関する研究
- ・デジタルサイネージに関する研究